

# 21世紀の全人的ケアを改革する為に



トム・A・ハッチンソン  
マギル大学 医学部 教授  
全人的ケアプログラム 責任者

(本書緒言より抜粋)

本書で述べていることの大部分は、全人的ケアの実践には不可欠な同僚である医師以外の医療従事者にも関係すると考えている。

また、本書は患者さんや一般の人々にとっても興味深いものとなる信じている。なぜなら患者になる可能性のある一人ひとりの内的資源こそが、21世紀に全人的ケアや医療が活用すべき未開発の主要な資源になるからである。医療を全人的ケアの方向へ改革するためには、ケアを提供する人、ケアを受ける人、そして一般の人々の参画が必要である。そのために、これら3者の誰にとっても読みやすい本となるよう心がけた。

トム・A・ハッチンソン

## 新たな全人的ケア —医療と教育のパラダイムシフト— 目次より抜粋

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 第1章 全人的ケア                  | 第11章 予防と全人的ケア                |
| 第2章 苦悩と全人的ケアと医療の目標         | 第12章 全人的ケアと補完療法              |
| 第3章 癒しの旅                   | 第13章 全人的ケアにおけるスピリチュアルな側面     |
| 第4章 医療の二分法の課題と調和した患者・医師関係  | 第14章 全人的ケアと遺伝学における革命         |
| 第5章 分離：病気における愛着理論と医療従事者の役割 | 第15章 多忙な病棟における全人的ケア          |
| 第6章 共感、慈しみ、そして医療の目標        | 第16章 医科大学における全人的ケアの教育        |
| 第7章 マインドフルネスと全人的ケア         | 第17章 全人的ケアとプロフェッショナリズムと医療の使命 |
| 第8章 癒しと傷つくことと医療における言葉      | 第18章 全人的ケア：結論                |
| 第9章 死の不安：全人的ケアの課題と期待       | 付 録 人間の本質と臨床医学               |
| 第10章 自己覚知による自己ケア           |                              |

# Whole Person Care



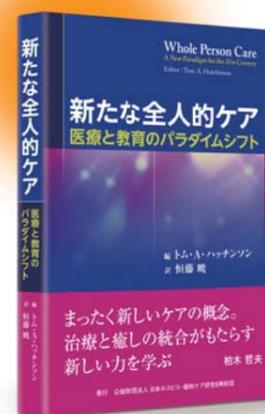
ご希望の方はお近くの書店または出版社にお申込みください。  青海社 FAX03-5832-6172

お申込書	
<b>新たな全人的ケア</b> — 医療と教育のパラダイムシフト —	定価 (本体 2000 円 + 税)
申込冊数 _____ 冊 (送料実費)	
お名前	電話番号
ご住所 〒	
E-Mail	@
書店印	

発売  株式会社 青海社 〒113-0031 東京都文京区根津1-4-4 河内ビル  
TEL 03-5832-6171 FAX 03-5832-6172  
ホームページ [青海社](#)

発行  ホスピス財団 〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30  
TEL 06(6375)7255 FAX 06(6375)7245  
ホームページ [ホスピス財団](#)

## 待望の日本語版、堂々の完成!



## 新たな全人的ケア

医療と教育のパラダイムシフト

トム・A・ハッチンソン 編 (マギル大学医学部 教授)  
恒藤 暁 訳 (京都大学医学部附属病院 緩和医療科 教授)

- ・発行 公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
  - ・発売 株式会社 青海社
  - ・定価 本体2000円+税
- ※お近くの書店または出版社にお問い合わせください。



 ホスピス財団  
(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

 株式会社 青海社

# 医療と教育のパラダイムシフト

## “新しいパラダイム”で臨床の変革を!

(前書きより一部抜粋)

**なぜ“全人的ケア”(Whole Person Care)に関する本なのか。**本書は、医療や日常生活におけるわれわれ一人ひとりにとって深く関係することを取り扱っている。医療を受ける人々、他者そして自己に対する見方、そして診断と治療の枠組みが根本的に変わる新しいパラダイムの誕生に立ち会うことになるであろう。

ある終末期患者は、セント・クリストファー・ホスピスに入院した時にシシリー・ソンドース(※)に次のように言った。「ここで安全に死ぬことができるとは、夢にも思っていなかった」。「安全に死ぬ」とはどういうことか。明らかに矛盾するこの言動を促したのは何であろうか。

※Cicely Saunders : 1918~2005年、英国の医師、現代的ホスピス運動の母

「一般診療において最も頻繁に使用される薬は、断然、医師自身である。実際、最も重要なのは、薬が与えられ、服用させる方法であり、雰囲気全体である」とのマイケル・バリント(※)の言葉を繰り返して紹介する。個人的な存在の質が、医学生が“最も与える薬”であるとしたら、医学部の教育カリキュラムにおいて、科学的根拠に基づく医療が“存在の質”を不可欠であるとはと考えていないことは、妙ではないだろうか。

※Michael Balint : 1896~1970年、ハンガリーの精神分析医

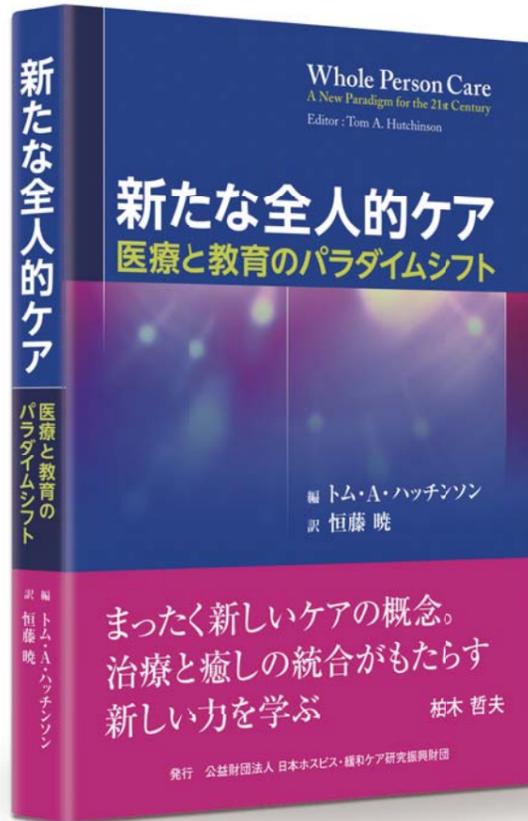
4つの重要な実存的問題がわれわれの人生を悩ませる。つまり死(存在が消滅すること)、孤独(自己と他者との間に埋められない隔たりがあること)、自由(不安になるほど外的組織に属さないこと)、意味(意味が不確かな世界における)である。これらの脅威は病気の時に増大する。しかし、これらの問題は現在の医療のパラダイムの範囲を明らかに越えており、診断や治療において通常、無視される。



### 柏木 哲夫

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長  
淀川キリスト教病院理事長・名誉ホスピス長  
大阪大学名誉教授

Whole Person Care の対象者は医学生や医師だけでなく、職種・専門性を問わず、すべての医療従事者や学生、全人的ケアに関心がある方々、そして苦痛・苦悩の中にあるすべての人々となります。本書を通して癒しの関係性が築かれ、人々が癒しへと導かれますように、そしてわが国でのホスピス・緩和ケアの臨床と教育の発展に少しでもお役立ていただけますように祈念しております。



## 新たな全人的ケア

医療と教育のパラダイムシフト



### 翻訳者からのお薦め

### 恒藤 暁

京都大学医学部附属病院 緩和医療科 教授



これまでの医学教育では治療を教えています。病気を診断・治療し、問題が起きた時には問題に対処し、悪いところがあったら元に戻すというアプローチが求められています。この場合、力は医療従事者にあります。しかし、これだけでは不十分であり、癒しというもう一つのアプローチが必要になります。それは病気としっかり対峙し、病気と共に人間として成長し、悪いところが元に戻せない場合、変化を受け入れることを支援することです。この場合、患者さんご自身が力の源になります。これが癒しという概念です。

Whole Person Care の教育では、治療と癒しの両方をバランスよく提供することのできる医療従事者を育てるのが理念です。

の慢性的疾患... あらゆる病気が治る特效薬はない... でない内的資源である。莫大な資源がある。それは、患者と医療従事者の技術的でない内的資源である。全人的ケアでは、癒しの潜在力のある内的資源と、治療と延命の潜在力のある医学的技術の外的資源を結合させて、人々の生命の量と質を最大限向上させることを目指しているのである。

### 3 ヒポクラテスとアスクレピオス

全人的ケアを象徴するものとして図 18-1 のカドゥケウス (caduceus:ギリシャ神話での神々の使者であるヘルメスが持つ杖) の比喩がある<sup>12)</sup>。白い蛇はヒポクラ

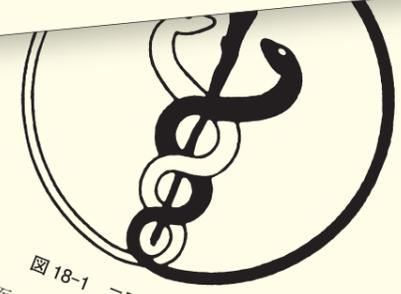


図 18-1 二匹の蛇の比喩

テス(前出, vii 頁)的な側面である治療を、黒い蛇はアスクレピオス(前出, 49 頁)的な側面である癒しを表している。第4章で述べられているが、表 18-1 に診療におけるヒポクラテスの側面とアスクレピオスの側面の特徴をさらに詳しく示す。これこそ、まさに二分法(dichotomy)であると思われる。この二分法は解消できる(あるいはその必要がある)ようなアルゴリズムの作成や機械の設計は、不可能であると考えられているからである。このような医療を実践するためには、ケアを必要とする患者の全人に最善の支援を提供するために、医療に内在する二分法を包括することのできる生身の全人が必要なのである<sup>13)</sup>。

ここで当然とも言える質問として、「1人の人間が、医療における二分法の両側面を包括することはできるのか、あるいはそれは必要であるのか」というものがある。われわれの答えは、はっきりと「もちろん可能であり、必要である」である。全人的ケアにおける癒しの可能性に気づけば、たとえ新人の医療従事者であっても、それを始められる。実際、多くの医学生は、医学部の入学時に医療におけるアスクレピオスの側面を学んでも、アスクレピオスの側面も、そのような方法で役立ちたいという思いから医学部に入学してくる学生もいる。ヒポクラテスの側面を学んでも、アスクレピオスの側面はほとんど残らなくなってしまう。アスクレピオスの側面は家族以外には行うことはできな